

## 優先的に検討すべき課題（案）

## 1. 適正利用・エコツーリズム検討会議にて検討すべき主な課題

## 全体会で検討すべき課題

< 知床国立公園利用適正化検討会議 引継書に記載のある事項 >  
 世界遺産委員会等からの勧告への対応  
 世界遺産地域管理計画に基づく施策の実施状況の点検  
 利用適正化基本計画及び利用の心得の修正・補完  
 リスク管理  
 アクセスのコントロール  
 環境収容力  
 利用状況のモニタリング  
 利用の心得の普及啓発

## 個別会で検討すべき課題

< 知床国立公園利用適正化検討会議 引継書に記載のある事項 >  
 先端部地区の利用調整  
 羅臼湖の利用のあり方  
 海域レクリエーション利用

## &lt; その他の課題 &gt;

知床連山縦走路の利用のあり方の検討

知床連山縦走路の二ツ池において、利用者の踏圧による湿原植生への影響が懸念されている。これまで登山道の付け替えを含めた具体的な対策を検討するため、専門家による植生調査等を実施してきており、今年度も引き続き調査を実施する予定である。

また、羅臼岳登山道においては、岩尾別 羅臼岳間の利用の集中が課題となっており、尿尿対策として携帯トイレの普及啓発を実施するとともに、トイレブースの設置検討のため、トイレブースの試験的な設置等を行ってきた。今年度も試験的なトイレブースの設置等、調査を行う予定である。

## 2. 優先課題

前記の課題のうち、課題の緊急度や取り組み状況（協議会などの立ち上げ状況）から、下記課題を優先して検討することが適当と考えられる。

## &lt; 全体会合課題 &gt;

世界遺産委員会等からの勧告への対応（エコツーリズム戦略の策定）

## &lt; 個別会合課題 &gt;

羅臼湖の利用のあり方

海域レクリエーション利用のあり方

エコツーリズム戦略策定に係る多様な意見集約（ワークショップ）

## 全体会で検討すべき課題（案）

世界遺産委員会および IUCN からの勧告において求められている統合的なエコツーリズム戦略の策定を行う（詳細は資料 4-3 を参照）。なお、作成にあたっては、既存の利用適正化基本計画及び利用の心

得等を活用するとともに、各地域の環境収容力やアクセスのコントロールに関する事項も本戦略に盛り込むことを検討する。また、本戦略においては、関係行政機関や地元関係団体等の各主体の役割や実施すべき事項等を記載することとし、各主体の施策・活動の実施状況及び戦略における達成度を簡便な方法により確認・検証・評価できる仕組みを検討する。

リスク管理については知床五湖、カムイワッカ湯の沢等の個別事案として検討するほか、知床半島全域におけるヒグマとの安全対策については、本年度は知床世界自然遺産地域科学委員会における「知床世界自然遺産ヒグマ保護管理方針検討会議（仮称）」での検討を実施することとする。

#### 個別会合で検討すべき課題（案）

長年来、課題とその対策の必要性が指摘されてきた羅臼湖の適正な利用のあり方について優先的に検討を行う（詳細は資料 4-4 を参照）。また、海域のレクリエーション利用については、ケイマフリ等海鳥の保護と持続可能な海域利用の両立を図るため、平成 21 年度より、「ウトロ海域懇談会」を設置しているが、本懇談会の平成 22 年度第 2 回目以降を適正利用・エコツーリズム検討会議の個別会合と位置づけ、ウトロ海域におけるケイマフリ等の海鳥と海域利用の両立を優先的に検討する（詳細は資料 4-5 を参照）。なお、先端部地区の利用調整については、昨年度に利用の心得の修正および普及啓発を実施しており、今後とも継続してルサフィールドハウス等を活用した利用の心得の普及啓発等に努める。

また、エコツーリズム戦略の策定については全体会合において行うこととするが、地域の多様な意見を反映させるため、戦略策定に係るワークショップを開催する（詳細は資料 4-3 を参照）。